

くすり一口メモ

投与間隔に注意が必要な抗がん剤

最近の癌患者の増加に伴い、抗がん剤に関する医療事故が多く見受けられます。

その中でも、投与間隔と投与量に関することが多いようです。

特にフッ化ピリミジン系抗がん剤同士の併用が行われていないか、また休薬期間が十分にとられているかについて処方する上で注意が必要です。

そこで今回は、「投与間隔に注意が必要な抗がん剤」について一覧表（当院採用品）にまとめてみました。

一般名	商品名	投与間隔
ダカルバジン	ダカルバジン	5日間連日投与、以後約4週間休薬（悪性黒色腫）、1回投与後13日間休薬（ホジキン病）
メトトレキサート	メソトレキセート	1週間に3～6回（日）投与（白血病） 5日間連日投与し、7～12日間休薬（絨毛性疾患） 週1回投与し1～4週間休薬（肉腫）
テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤	ティーエスワン	28日間連日投与、その後14日間休薬（初回投与の場合）あるいは少なくとも7日間休薬（安全性に問題がない場合）
フルオロウラシル	5-FU	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中は禁忌、投与中止後は7日以上間隔を空ける（ギメラシルがフルオロウラシルの異化代謝を阻害し、血中フルオロウラシル濃度が上昇し、重篤な血液障害などの副作用が発現するおそれあり）
テガフル	フトラフル	
テガフル・ウラシル	ユーエフティ	
ドキシフルリジン	フルツロン	
塩酸ゲムシタピン	ジェムザール	週1回投与を3週連続し、4週目は休薬
レボホリナートカルシウム	アイソボリン	1週間毎に6回投与後、2週間休薬
ホリナートカルシウム	ユーゼル	28日間連日投与し、7日間休薬
塩酸ドキシソルピシン	アドリアシン	7～10日休薬、18日間休薬
塩酸エビルピシン	ファルモルピシン	少なくとも3～4週間休薬（膀胱腔内注入後は4日間休薬）
マイトマイシンC	マイトマイシンS	1～3週間以上の間隔をあけて投与
塩酸ブレオマイシン	ブレオ	週2回投与（動注時）、週1～2回投与（油性注時）
硫酸ペプロマイシン	ペブレオ	1週間に2～3回投与
硫酸ピンクリスチン	オンコピン	1週間に1回投与
硫酸ピンプラスチン	エクザール	1週間に1回投与
バクリタキセル	タキソール	少なくとも3週間休薬
ドセタキセル	タキソテール	1日1回、3～4週間間隔で投与
シスプラチン	ランダ	少なくとも1～3週間休薬（投与量により異なる）
カルボプラチン	パラプラチン	少なくとも4週間休薬
塩酸イリノテカン	トボテシン	少なくとも2～3週間休薬
エトポシド	ベプシド	5日間連日投与し、3週間休薬 21日間連日投与し、1～2週間休薬
酢酸リュープロレリン	リュープリン	4週に1回投与
抗悪性腫瘍溶連菌製剤	ピシバニール	連日又は隔日1回投与2～3週かけ漸増、週1～2回投与（維持）
レンチナン	レンチナン	週2mg（1mg週2回又は2mg週1回）

<参考文献> 薬局2004, vol.55, No.3:南山堂, 各メーカー添付文書 添付文書参照
(鹿児島市医師会病院薬剤部 湯川 久信)